

授業科目 人体の構造と機能Ⅰ

【担当教員名】		対象学年	1	対象学科	看護			
		開講時期	前期	必修・選択	必修			
		単位数	2	時間数	60			
【概要・一般目標：G10】								
人体の基本的構造を全体的に理解する。器官・組織系、骨格系、筋系、循環器系、内臓系、内分泌系、感覚器系、神経系 について、それぞれの形態・構造を理解する。								
【学習目標・行動目標：SB0】								
1. 人体を構成する細胞の構成要素と機能を説明できる。								
2. 細胞から成り立つ組織の四大分類とその特徴を説明できる。								
3. 生活行動を支える運動器系について、形態と構造を説明できる。								
4. 生体内の流通経路としての脈管系について、形態と構造を説明できる。								
5. 呼吸と栄養摂取の機構について、形態と構造を説明できる。								
6. 排泄および性と生殖に関する機構について、形態と構造を説明できる。								
7. 液性調節（内分泌系）の機構について、形態と構造を説明できる。								
8. 神経系調節の機構と感覚器系について、形態と構造を説明できる。								
回数	授業計画・学習の主題				SB0 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員		
1	解剖学序論	解剖学とは	解剖学用語	看護学との関わり	1	講義		
2	組織学 1	組織学総論	人体を構成する細胞と細胞内小器官		1, 2	講義		
3	組織学 2	組織学各論	上皮組織		2	講義		
4	組織学 3		支持組織		2	講義		
5	組織学 4		筋組織	神経組織	2	講義		
6	骨格系 1	骨学総論	骨の構造		3	講義		
7	骨格系 2	骨学各論	頭蓋		3	講義		
8	骨格系 3		脊柱	胸郭	3	講義		
9	骨格系 4		上肢の骨	下肢の骨	3	講義		
10	筋系 1	頭頸部の筋	胸腹部の筋		3	講義		
11	筋系 2	上肢の筋			4	講義		
12	筋系 3	下肢の筋			3	講義		
13	脈管系 1	心臓の構造	体循環と肺循環		4	講義		
14	脈管系 2	血管の構造	動脈	静脈	毛細血管	4	講義	
15	脈管系 3	動脈系	静脈系	リンパ系		4	講義	
16	消化器系 1	消化管の構造			5	講義		
17	消化器系 2	口腔	食道	胃	小腸	大腸	5	講義
18	消化器系 3	肝臓	肝胆道系		膵臓	5	講義	
19	呼吸器系 1	気道	気管・気管支	肺		5	講義	
20	呼吸器系 2	気道	気管・気管支	肺		5	講義	
21	泌尿生殖器系 1	泌尿器系			6	講義		
22	泌尿生殖器系 2	生殖器系			6	講義		
23	内分泌系 1	内分泌腺各論（1）			7	講義		
24	内分泌系 2	内分泌腺各論（2）			7	講義		
25	神経系 1	中枢神経系	脳	脊髄	8	講義		
26	神経系 2	末梢神経系	脳神経	脊髄神経	8	講義		
27	神経系 3	末梢神経系	自律神経		8	講義		
28	感覚器系	感覚器系各論			8	講義		
29	人体解剖見学実習	系統解剖の見学			1～8	実習（学外）		
30						（講義内容変更の場合もあります。）		
【使用図書】		＜書名＞	＜著者名＞	＜発行所＞	＜発行年・価格 他＞			
教科書 （必ず購入する書籍）		入門人体解剖学	改訂 藤田 恒夫	南江堂	1999・5,000円＋税			
		第4版						
参考書		人体解剖ビジュアル	－ 松村 譲児	医学芸術社	2005・3,800円＋税			
		からだの仕組みと病気－						
		あたらしい人体解剖学	パトリック・W・タンク、トーマス・R・ゲスト、佐藤 達夫	メディカル・サイエンス・インターナショナル	2009・7,000円＋税			
		アトラス						
その他の資料								
【評価方法】			【履修上の留意点】					
出席状況、小テスト、期末試験（筆記試験）、レポート提出の総合評価による。			短期間に「解剖学」の全範囲を勉強しますので、予習・復習を習慣づけてください。疑問点はそのままにせず、積極的に質問するなど、主体的に学習してください。不定期に小テストをおこないます。欠席をしないよう特に注意してください。なお、学外実習についての注意点は、講義時間中に伝達します。					